

【火山現象に関する予報及び警報の状況】

いずれの火山についても、噴火に関する予報警報事項に変更はない。

表 1 火山現象に関する予報及び警報の発表履歴 (8 月 15 日~21 日)

発表日時	火山名	警報・予報	概要
毎日 07 時、17 時	三宅島	火山ガス予報	島内の火山ガスの分布状況

表 2 8 月 21 日現在の噴火警報及び噴火予報等の発表状況

警報・予報	噴火警戒レベル 及びキーワード*	該当火山
火口周辺警報	レベル 3 (入山規制)	桜島
	レベル 2 (火口周辺規制)	浅間山、三宅島、薩摩硫黄島、諏訪之瀬島
	火口周辺危険	硫黄島
噴火警報及び火山現象に関する海上警報	周辺海域警戒	福岡ノ場
噴火予報	レベル 1 (平常)	樽前山、有珠山、北海道駒ヶ岳、岩手山、吾妻山、草津白根山、御嶽山、富士山、伊豆大島、九重山、阿蘇山、雲仙岳、霧島山(御鉢、新燃岳)、口永良部島
	平常	上記以外の活火山

* 噴火警戒レベルは、その活用が地域防災計画等で予め定められており、レベル毎の防災対応をキーワードで示している。噴火警戒レベルを導入していない火山については、警戒事項をキーワードで示している。(本概況末の対応表参照)



図 1 8 月 21 日現在噴火警報発表中の火山

【各火山の活動状況及び予報警報事項】

浅間山 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

今期間、噴火は観測されなかったが、噴煙活動はやや活発で、噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移した。また、夜間には高感度カメラ¹⁾により微弱な火映が時々観測されている。

火山性地震及び火山性微動はやや多い状態が続いている。

15日、18日及び20日に行った現地調査では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり1,500~3,300トン（前回14日、1,700~2,900トン）と多い状態が続いている。

なお、地殻変動には特段の変化はみられていない。

浅間山では、依然として火山活動が高まった状態が続いており、山頂火口から概ね2kmの範囲に影響を及ぼす噴火が発生すると予想されるので、これらの地域では、大きな噴石²⁾に警戒が必要である。風下側では、降灰及び風の影響を受ける小さな噴石²⁾にも注意が必要である。また、火山ガス放出量の多い状態が続いているので、風下側にあたる登山道等では、火山ガスにも注意が必要である。

1) 長野県建設部佐久建設事務所の黒斑山設置カメラ及び国土交通省利根川水系砂防事務所の山麓設置カメラによる。

2) 噴石については、大きさによる風の影響の程度の違いによって飛散範囲が大きく異なる。本文中「大きな噴石」とは、「弾道を描いて飛散する大きな噴石」のことであり、それより小さく風の影響を受ける噴石は、例えば「風の影響を受ける小さな噴石」という表現を用いる。

三宅島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）]

噴煙高度は火口縁上概ね200mで推移した。火山性地震はやや多い状態が続いている。

19日に行った現地調査では、二酸化硫黄の放出量は一日あたり1,400~1,500トン（前回4日、1,300~1,800トン）と依然として多量の火山ガス放出が続いている。

三宅島では、山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口周辺では噴火に対する警戒が必要である。また、風下にあたる地区では火山ガスに対する警戒が必要である。降雨時には泥流にも注意が必要である。

硫黄島 [火口周辺警報（火口周辺危険）]

独立行政法人防災科学技術研究所及び国土地理院の観測によると、地震活動は落ち着いた状態で経過しているが、2006年8月以降みられている島全体の隆起を示す地殻変動が継続している。

硫黄島では、火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、従来から小規模な噴火が発生した領域では噴火に対する警戒が必要である。

福徳岡ノ場 [噴火警報（周辺海域警戒）及び火山現象に関する海上警報]

今期間観測は行われなかった。なお、これまでの海上保安庁海洋情報部、第三管区海上保安本部及び海上自衛隊による上空からの観測では、福徳岡ノ場付近の海面に、長期にわたり火山活動によるとみられる変色水等が確認されている。

福徳岡ノ場では、引き続き小規模な海底噴火が発生すると予想されるので、周辺海域では噴火に対する警戒が必要である。

霧島山（新燃岳） [噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）]

19日以降火山性地震の回数が増え、やや多い状態が続いているが、地震の振幅はいずれも小さく、火山性微動は発生していない。

21日に行った新燃岳の火口周辺の現地調査では、前回（3月13日）と比べて噴気や地熱の状況に特段の変化は認められなかった。

現在のところ、霧島山（新燃岳）では火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候はみられず、噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）が継続している。

桜島 [火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）]

今期間、噴火は観測されなかった。

国土地理院のGPS観測によると、始良カルデラ（鹿児島湾奥部）の地下深部へのマグマ注入による

と考えられる長期的な膨張が続いている。桜島の昭和火口の噴火活動は、2006年6月の噴火以降、長期的には次第に活発化している傾向がみられている。

桜島では、南岳山頂火口及び昭和火口から2km程度の範囲で大きな噴石²⁾及び火砕流に引き続き警戒が必要である。また、風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石²⁾(火山れき³⁾)にも注意が必要である。降雨時には泥流や土石流に注意が必要である。

3) 桜島では「火山れき」の用語が地元で定着していると考えられることから、付加表現している。

薩摩硫黄島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

硫黄岳山頂火口の噴煙活動はやや活発な状態が続いており、噴煙高度は火口縁上300mであった。

火山性地震はやや多い状態が続いている。

薩摩硫黄島では、硫黄岳山頂火口周辺に影響を及ぼす程度の噴火が発生すると予想されるので、火口周辺では噴火に対する警戒が必要である。

諏訪之瀬島 [火口周辺警報(噴火警戒レベル2、火口周辺規制)]

21日に御岳火口で小規模な噴火が発生した。

火山性地震及び火山性微動は消長を繰り返しながらやや多い状態が続いている。

諏訪之瀬島では、今後も御岳火口から半径約1kmの範囲に大きな噴石²⁾を飛散させる程度の小規模な噴火が発生すると予想されるので、噴火に対する警戒が必要である。

上記以外の火山では、火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合は生命に危険が及ぶ)噴火の兆候はみられない。

【参考】 噴火警報及び噴火予報と噴火警戒レベル等の対応表

警報・予報	噴火警戒レベルとキーワード	噴火警戒レベルを導入していない火山に対するキーワード	海底火山に対するキーワード
噴火警報	レベル5(避難)	居住地域嚴重警戒または山麓嚴重警戒	周辺海域警戒
	レベル4(避難準備)		
火口周辺警報	レベル3(入山規制)	入山危険	
	レベル2(火口周辺規制)	火口周辺危険	
噴火予報	レベル1(平常)	平常	平常